

機関番号：80101  
 研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2007～2010  
 課題番号：19320110  
 研究課題名（和文） 近世後期から近代初期に形成された知識人ネットワークに関する基礎研究  
 研究課題名（英文） Basic Study on the Intellectual Network Formed between Late Early Modern Times and the Beginning of Modern Times  
 研究代表者  
 笹木 義友（SASAKI YOSHITOMO）  
 北海道開拓記念館・学芸部・研究員  
 研究者番号：50132832

研究成果の概要（和文）：本研究では、近世後期から近代初期にかけて、尊王攘夷派の志士、蝦夷地の〈探検家〉、書籍や地図の出版者、情報屋、書画骨董類の収集家などとして、さまざまな活動を行った松浦武四郎に焦点を当て、当該期における知識人ネットワークの具体的な様相について明らかにした。また、今後の松浦武四郎研究の新たな展開に向けての基礎資料として、松浦武四郎関係資料（特に松浦武四郎関係書簡）のデータベースを作成した。

研究成果の概要（英文）：In this study, MATSUURA TAKESHIRO who did various activities between late early modern times and the beginning of modern times, saying that patriot of royalism and expulsion of foreigners sect, explorer of Ezo ground, bookmaker, Intelligence activity person, collector of old paintings and writings and curios, was paid to attention, and concrete aspects of the intellectual network in that period was clarified. Moreover, the data base of historical materials (especially, letters) related to MATSUURA TAKESHIRO was made as basic materials for new development of research of MATSUURA TAKESHIRO in the future.

#### 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2008年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2009年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2010年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
総計	9,300,000	2,790,000	12,090,000

研究分野：人文地理学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本近世史、幕末維新史、知識人社会、知識人ネットワーク、情報、松浦武四郎

#### 1. 研究開始当初の背景

(1) 幕末期の〈北方探検家〉として著名な松浦武四郎に関しては、戦前期より伝記的研究が積み上げられてきた。また、武四郎の蝦夷地関係の調査記録は、多くの北方史、アイヌ史関係の研究者により、重要な史料として活用されてきた。しかし、〈北方探検家〉に限らない武四郎の活動や、武四郎が構築した知識人ネットワークの意義を歴史的に評価す

るという視点での研究は未着手に近い状態であった。

(2) 近年、歴史学の分野では、情報や「知」の共有、知識人ネットワークを切り口にした研究が注目されてきた。しかし、そのような切り口による研究は、さらなる事例や史料の積み重ねが必要であり、その上で個々の事例が持つ個性や地域性・歴史的普遍性を明らかにしていかなければならない。その意味で、

地域的及び人的な多様さという点では希有のネットワークの存在が想定される松浦武四郎という人物を対象とすることは重要な意義を持つと考えた。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究では、幕末期の〈北方探検家〉として著名な松浦武四郎（1818～1888、現三重県松阪市出身）に焦点を当て、近世後期から近代初期に形成された知識人ネットワークの具体相とその特質を明らかにすることを目的とした。尊王攘夷派の志士としての一面を持ちつつ幕末維新期の北方政策に関与し、かつ、江戸（東京）を中心とする知識人社会に広範な人脈を築いたと考えられる武四郎を軸とすることによって、政治的にも社会的にも、さらには文化的にも大きく変容した、激動の時代を考える上での新たな論点を提示することが出来ると考えた。

(2) 本研究にて、研究対象として想定される歴史資料は、武四郎が多様な人的交流の中でやりとりした書簡や書画、自筆写本を中心とする旧蔵書、〈古物〉（武四郎が知友などから入手した古書画や考古遺物等）、アイヌ民族資料などであるが、いまだほとんど活用されていない資料も多い。かつ、未公表の資料の発掘も数多く想定されることから、それらの歴史資料を集積し、文字資料のデジタル化を図り、これらのデータベースを構築し、広く活用の途を拓くことも目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 武四郎関係の一次史料として、武四郎の生家（三重県松阪市（旧一志郡三雲町））と、東京在住の直系の子孫宅に伝来した資料群がある。武四郎がやりとりした書簡や書画、自筆写本を中心とする旧蔵書、蝦夷地関係の自筆記録や出版物、武四郎が実際に蝦夷地で入手したアイヌ民族資料など、約 1400 件がそれである。これらの資料群は現在、松浦武四郎記念館（三重県松阪市）で一括して所蔵されている。平成 16 年（2004）には、文化庁と三重県の補助事業の成果として三雲町教育委員会から『松浦武四郎関係歴史資料目録』が刊行され、平成 20 年（2008）には、それらのうち、1503 点が「松浦武四郎関係資料」として国の重要文化財（歴史資料）に指定されるなど、資料群としての重要性が高く評価されてきた。しかし、蝦夷地関係の調査記録以外については、個別の歴史資料の内容にふみこんだ分析と活用は今後の課題として残されてきたのが現状である。そこで、まずは、松浦武四郎記念館が所蔵する武四郎関係資料の悉皆調査を、本研究における第一の作業課題とした。

(2) 江戸（東京）を中心として幅広い交友関係を築いたと思われる武四郎の活動を考慮

すれば、いまだ少なからぬ関係資料が武四郎と交友を持った多くの知識人ゆかりの資料群の中に埋もれている可能性が高い。そこで、武四郎に関する新たな資料の発掘を本研究における第二の作業課題とした。具体的な調査地としては、武四郎が交友を持ったことが判明している志士・幕臣・学者・文人などに関する資料群を所蔵している機関や個人宅を想定し、4 ヶ年間の研究期間中、1 年目は東北・関東地方、2 年目は中部地方、3 年目は関西・四国地方、4 年目は中国・九州地方と重点調査地域を設定して、調査を行うこととした。

(3) 研究代表者、連携研究者、研究協力者それぞれの専門性に応じて分担して、武四郎関係の歴史資料の所在調査・収集及び研究を行った。具体的な分担課題は、以下の通りである。

### □研究代表者

・ 笹木義友（北海道開拓記念館）  
「総括・知識人ネットワークに関する地誌的及び書誌学的研究」

### □連携研究者

・ 佐々木利和（北海道大学）  
「知識人ネットワークとアイヌ絵及びアイヌ民族資料に関する研究」  
・ 山田哲好（国文学研究資料館）  
「知識人ネットワークに関する文献史学的研究」  
・ 三浦泰之（北海道開拓記念館）  
「知識人ネットワークに関する美術史学的及び文献史学的研究」  
・ 東俊佑（北海道開拓記念館）  
「知識人ネットワークに関する文献史学的研究」

### □研究協力者

・ 山本命（松浦武四郎記念館）  
「松浦武四郎関係資料の総合的研究」  
・ 松本あづさ（藤女子大学）  
「知識人ネットワークにおける異国船情報の研究」

## 4. 研究成果

(1) 札幌市中央図書館所蔵の松浦武四郎自筆『交友名簿帳』の研究から、20 代後半から 30 代前半の時期における武四郎の交友関係、思想形成のあり方を、具体的に明らかにした。特に、江戸で志士や文人、学者などと幅広い交友を持っていたことや、勤王思想へ強く傾倒していたことが浮き彫りになった。

(2) 松浦武四郎記念館が所蔵する武四郎の子孫宅に伝来した資料群の調査を実施した。特に、東京松浦家に伝来した書簡類（卷子装 22 件と 1 枚もの 2 件の計 24 件 292 点）はこれまで未紹介のものが多く、全点全文を翻刻紹介した。また、調査期間中、松阪松浦家から、武四郎書簡を含む、新たな資料約 430 件が見

つかり、その仮目録を作成した。

(3) 4ヵ年間の資料調査を通じて、東北・関東・中部・関西・四国・中国・九州地方に所在する資料保存・利用機関及び個人宅にて、武四郎関係資料を確認した。主な文書群は以下の通りである。

- ・東蝦夷地子モロ場所の通辞役秋田屋加賀伝蔵関係資料（別海町郷土資料館附属施設加賀家文書館）
- ・仙台藩士十文字龍介関係資料（北海道立文書館）
- ・伊勢国出身の志士世古延世関係資料（東北大学附属図書館狩野文庫）
- ・足利藩の御用絵師田崎草雲関係資料（草雲美術館）
- ・武蔵国の豪農根岸武香及び武蔵国の医師小室元長関係資料（埼玉県立文書館）
- ・水戸藩の学者豊田天功関係資料（茨城県立歴史館・国立国会図書館）
- ・土浦藩の農政学者長島尉信関係資料（茨城県立歴史館・外務省外交資料館）
- ・江戸の書肆山城屋忠兵衛編纂の『文鳳堂雑纂』全117冊（国立公文書館）
- ・渡辺刀水旧蔵諸家書簡文庫（東京都立中央図書館）
- ・仙台藩関係者の伊藤浩然編纂の『浩然随筆』全50冊（神奈川県立歴史博物館・東京大学史料編纂所）
- ・東海道吉原宿の脇本陣鈴木香峰関係資料（富士市立博物館）
- ・大宮町の町役人角田桜岳関係資料（富士宮市教育委員会・東京国立博物館）
- ・尾張藩の陪臣水野正信関係資料（名古屋市蓬左文庫）
- ・津藩の儒学者平松楽斎関係資料（津市教育委員会）
- ・津藩の豪商川喜田石水関係資料（石水博物館）
- ・伊勢神宮の神官足代弘訓及び松田雪柯関係資料（神宮文庫）
- ・京都の文人画家富岡鉄斎関係資料（鉄斎美術館・天理大学附属天理図書館）
- ・宇和島藩伊達家関係資料（宇和島伊達文化保存会）
- ・主に江戸（東京）で活動した漢学者川田甕江関係資料（倉敷市立玉島図書館）
- ・福岡の国学者及び〈古物〉収集家江藤正澄関係資料（福岡市総合図書館・九州大学附属図書館中央図書館）
- ・佐賀藩鍋島家関係資料（鍋島報効会・佐賀県立図書館）

(4) 上記の調査を通じて確認した武四郎関係資料は、主に、書簡類や風聞留（情報集）である。これらの資料から、幕末期、主に江戸で暮らしていた武四郎が入手した政治・社会情勢に関わる情報などを各地の知友に宛てて積極的に発信しているようすや、武四郎が

発信した情報が写しの形で広がっているようすなどを具体的に知ることが出来た。特に、『浩然随筆』全50冊中にある、仙台藩関係者に宛てた、写しを含む26通の武四郎書簡には、嘉永年間のペリー来航に関して武四郎が江戸や下田で収集したさまざまな情報が盛り込まれており、当該期における情報の流通を考える上で極めて重要な史料と言える。ちなみに、これらの書簡中で武四郎は、自身の情報収集活動について、「触書や人事異動などの公辺の動向は、毎日午後10時頃にはその日の情報が手元に入ってくる」（嘉永7年1月23日付書簡写）とか、「下田へは諸藩から密偵が入っているが、3～5日程度の逗留も出来ず追い返されている。自分は存分に情報収集をすることが出来た。…江戸広しといえども、これほどの情報を手に入れられたのは自分しかいない」（嘉永7年6月14日付）と記している。また、鈴木香峰宛での28通の武四郎自筆書簡では、慶応3年からその翌年にかけて武四郎が江戸や京都で入手した、浪士の乱暴や新政府の動向に関する情報が詳細に記されており、先述したペリー来航に関する事例も踏まえると、武四郎はその生涯を通じて、精力的に情報の収集や発信（情報活動）を行っていたことが、具体的に明らかになった。ただ、その情報源や動機については明確にし得なかった。公辺の動向やペリー来航関係情報の収集に関しては、幕府役人（例えば、目付松本十郎兵衛や下田奉行組頭黒川嘉兵衛）との強いコネクションが想定されること、精力的な情報活動に関しては、武四郎が情報の提供をある種のなりわいとしていたことや、強烈な自己顕示欲の現れなど、いろいろな可能性が考えられるが、詳細な検討は今後の課題である。

(5) 武四郎が築いた知識人ネットワークの研究を進展させていく上で、武四郎関係書簡（本研究では、①武四郎が発信した書簡、②武四郎が受信した書簡、③文中に武四郎の名前が登場する第三者間の書簡、という三つの区分を設定）の調査研究が重要であることは言うまでもない。そこで、今後の武四郎研究の新たな展開に向けての基礎資料を提示するという意味も込めて、本研究で確認した武四郎関係書簡2252点のデータベースを作成した。このデータベースや上記(1)～(4)の主な成果内容については、笹木義友・三浦泰之編『松浦武四郎研究序説―幕末維新时期における知識人ネットワークの諸相―』（制作：北海道出版企画センター、2011年3月）にまとめた。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

- ① 三浦泰之「埼玉県立文書館所蔵根岸武香関係文書にある松浦武四郎関連資料」、『松浦竹四郎研究会会誌』第 59 号、17-24 頁、2010 年、査読無
- ② 三浦泰之「札幌市中央図書館所蔵の松浦武四郎自筆資料（2）」、『松浦竹四郎研究会会誌』第 58 号、10-22 頁、2010 年、査読無
- ③ 三浦泰之「札幌市中央図書館所蔵の松浦武四郎自筆資料（1）」、『松浦竹四郎研究会会誌』第 57 号、19-21 頁、2010 年、査読無

〔図書〕（計 2 件）

- ① 笹木義友・三浦泰之編『松浦武四郎研究序説—幕末維新期における知識人ネットワークの諸相—』制作：北海道出版企画センター、2011 年、644 頁
- ② 松浦武四郎生誕 190 年等記念事業実行委員会『松浦武四郎～時をこえてつなげる心～』松浦武四郎生誕 190 年等記念事業実行委員会、2009 年、14 頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

笹木 義友 (SASAKI YOSHITOMO)  
北海道開拓記念館・学芸部・研究員  
研究者番号：5 0 1 3 2 8 3 2

### (2) 研究分担者

佐々木 利和 (SASAKI TOSHIKAZU)  
北海道大学・アイヌ・先住民研究センター・教授

研究者番号：8 0 1 3 2 7 0 2  
(H19→H20：連携研究者)

山田 哲好 (YAMADA TETUYOSHI)  
国文学研究資料館・研究部・准教授  
研究者番号：7 0 2 2 0 3 9 0

(H19→H20：連携研究者)

三浦 泰之 (MIURA YASUYUKI)  
北海道開拓記念館・学芸部・研究員  
研究者番号：5 0 3 0 0 8 4 3

(H19→H20：連携研究者)

東 俊佑 (AZUMA SYUNSUKE)  
北海道開拓記念館・学芸部・研究員  
研究者番号：3 0 3 7 0 2 2 4

(H19→H20：連携研究者)

### (3) 研究協力者

松本 あづさ (MATUMOTO AZUSA)  
藤女子大学・文学部・講師  
研究者番号：9 0 5 1 0 1 0 7  
山本 命 (YAMAMOTO MEI)  
松浦武四郎記念館